

備後

bingo kyokuho

教区報 第188号

2025(令和7)年7月25日

CONTENTS

- ◇ 備後仏青「戦後80年とは」
- ◇ 備後真宗史の散歩道
- ◇ 月報 News 活動情報
 - 仏婦連盟70周年記念
 - 養成研(第3回)
 - 助永氏 宗会副議長就任
- ◇ 願記処理電子システム
- ◇ 予報インフォメーション

拾っているのは
ゴミだけじゃない
あなたの応援が彼らのチカラに

備後教区仏教青年連盟は、仏教の教え、お念仏のご縁を若い世代に広げていく活動をしています。主な活動として、毎月1回の「美化美化部」の活動をはじめ、年に一度の婚活パーティーの開催、新年会やBBQなど、さまざまな交流イベントを企画しています。

美化美化部では福山駅周辺での清掃活動を行い、地域の環境美化に貢献しています。毎月一度、2名から10数名の参加者が集まり、約30分間のゴミ拾いを実施。

その後、希望者で食事をともにし、活動の振り返りや交流を深めています。10代から50代まで幅広い世代が集い、それぞれの立場から仏教の教えを共有する場となっています。このように、備後教区仏教青年連盟は、仏教の教えを旨として、世代を超えた結びつきを大切に、お寺やお念仏のご縁を広げるため、今後も多様な活動を続けていく予定です。

しかしながら、仏青に関わってくださる方は決して多くなく、人的にも金銭的にも慢性的に足りていない状態です。是非一度仏青の活動にご参加いただければと願っております。次世代のご縁作りにご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

仏青連盟

戦後80年とは いったい何なのか!?

あの日までの80年と
あの日からの80年
そしてこれからの80年



本願寺中央仏教青年連盟メンバー「長崎」「広島」へ 戦後80年全戦没者追悼法要へ参列 (備後教区からは8名参加)

第二次世界大戦が終結してから、80年が過ぎようとしている。昭和20年8月15日。日本敗戦。そのわずか数日前の8月6日広島。そして、8月9日長崎に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして多くの尊い命が奪われた。この戦争では大量殺戮兵器の使用が現実となった事。そして世界各地で戦闘員に限らず多くの市民が犠牲となった。

今回、仏教青年連盟中央委員10名と指導講師2名が代表して7月5日、安芸教区広島別院での追悼法要へ参列し、その翌日には全国から集まった仏青の仲間と共に、先日ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の箕牧智之代表委員の講和会に出席して、「平和とは何か？」を学んだ。また、それに先立つ7月4日に勤修された長崎教区での法要にも、有志の中央委員3名と指導講師2名が参列した。

まずは日を追って長崎の法要から振り返ってみたい。
長崎市に隣接する諫早市文化会

館にて、法要は営まれた。当日は7月上旬とは思えない猛暑だったが、約850名の参列者が訪れた。長崎教区教務所長邊春真乗、御導師のもと素晴らしい法要が勤められた。また記念講演では、長崎市出身の芥川賞作家、青来有一氏のお話を聞いた。同氏は2010年から2019年まで長崎原爆資料館館長も歴任され、実家は真宗門徒である。青来氏の平和への思いは、生まれ育った長崎の仏教の影響を受けながらも、実母の介護で世話になったキリスト教の関連施設に思いを馳せたりしながら進んで行った。隠れキリシタンで知られる長崎ならではのお話は、真宗布教使とはひと味違った趣きであった。

また法要後には中央仏青連盟の近藤翔真委員長(長崎教区)が提案した法要テーマ「仏さまの声をきく」生きとし生けるものの平和のために「」が最優秀賞に選ばれ、表彰を受けた。



長崎よりも酷暑と感じられる広島に、長崎での5名以外の中央委員ほか10名が集結したのは翌日の7月5日。広島別院の本堂とそれに隣接する共命ホールには約350名の参拝者が訪れた。

法要後、崇徳高校の横山律人さんと進徳女子高校の大槻華奈さんが平和へのメッセージを述べた。続いて切明千枝子さん、森下弘さんが被爆体験証言としてお話された。

お二人は、それぞれの目線から見た当時の広島島の現状を非常に生々しく伝えてくださった。森下さんのお話の途中、記憶が前後



されたのか、お言葉に詰まる場面があった。その間、実に3分近く……TVやラジオなら放送事故になっただろう。しかし、誰一人として身じろぎすらしない。じつと森下さんを見つめて、ひたすら次の言葉を待った。その後、スタッフに促されて森下さんは無事に最後までお話を終えられたが、私たちはその言葉を、一言一句聞き逃すまいとした。皆、分かっていたのだ。切明さんも森下さんも、共に90歳を超えるご高齢。「今、聞き逃したら次は無い」と言う思いが私たちには強かった。

5日の夕刻からは、更に熊本から広島入りした10名の仲間たちが合流して、市内で懇親会が持たれ、久しぶりの再会を喜んだ。

翌日もさらに気温は上がり、平和記念公園は肌を刺す様の日差しの中、私たちは本日合流の仲間を加えて総勢30名超えの人数になった。平和記念資料館を見学



後、いよいよ被団協箕牧代表の講和会に出席した。箕牧氏は、実に気さくな、「これぞ広島のおっちゃん」といった温かみのある人柄の方だった。「今はワシが代表しとるけど、今度の賞をもううた事を伝えたい人がいっぱいおるんよ」との言葉が印象的だった。

さて、今回の長崎、広島での法要参加、記念講演等のお話をお聞きして感じた事がある。それは、その全ての方々が決して、「被害者」の立場だけの側で話をされてはいないと言う事だった。切明さんは仰られた。

「広島はね、今でこそ平和へのメッセンジャーみたいになってるけど、かつては『軍都広島』だったの。旧日本軍の大本営が最初に設置された所なの。そして、当時の私たちはそれが自慢で誇りですらあったんです。でもね、宇品の港から戦地に送られるのは人間だけではなかった。馬や犬、猫や鳩も戦争に利用されました。動物にも分かるのかしらね……。船に乗せられる時、馬や犬が悲しそうな

声で鳴くの。それが遠くまで響くんです。小学生の私は、その声を聞くのが堪らなくなかったの。」

また、記念布教をくださった吉崎哲真師はこうも話された。



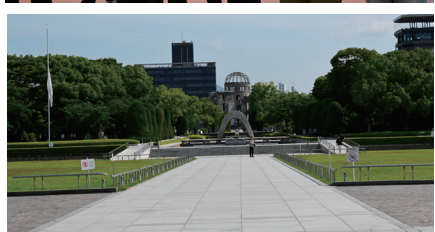
「今年は単なる

先の大戦から数えて80年の節目の年では無いんです」、「あの日、昭和20年から遡る事80年は明治元年に当たります。つまり、明治45年間。続く大正が15年。そして、昭和の敗戦までの20年を加えると丁度80年になる。確かに、あの日の後は仮にも我が国には戦争は無かった。しかし、その前の80年間は戦争の時代だったのです。明治開国以来、富国強兵政策を推し進めた日本は、日清、日露、日中戦争、そして二つの世界大戦……。正に血を血で洗う80年間でした。これからの80年間は一体どうなっていくのか？ 我々が平和の尊さを伝えて行かねばなりません」

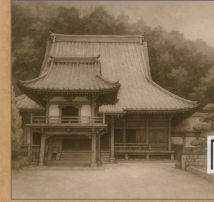
我ら中央仏教青年連盟メンバーは講和会後、ヒロシマ・ゲート・パーク(旧広島市民球場跡地)でランチを共にし、また全国各地へと散らばって行った。各々が感じた「平和への思い」を胸に……。

最後に、切明さんの言葉から。「平和ってね。目には見えないし、何だかふわふわしたものだ。しっかりと捕まえてなきゃ、また直ぐに何処かへ行っちゃうような気がします」

なお7月3日には、沖縄にて同様の法要が行われた事だった。私たちは沖縄参列は叶わなかったが、大谷光淳ご門主は沖縄、長崎、そして広島と全ての法要にご臨席された。猛暑の中、大変なご苦勞であったかと偲ばれる。

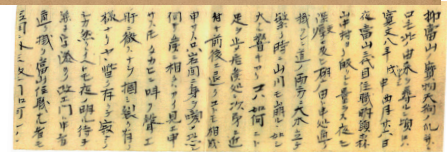


Close-Up-Bingo

史の真備後
散歩道三次市作木 東光坊
『化物と石山合戦』

もののけミュージアム(江戸時代)の三次を舞台とした妖怪物語を中心とした博物館)今年春の企画展に、三次組東光坊(坂原英見住職)の所蔵品(天狗の爪)が公開された。長い歴史をもつ寺院には、妖怪話のように真偽が疑われつつも、ひっそりと伝わってきた逸話・物語も多い。いつもの寺の風景の中に、ふと顔を出す歴史の面影。それを散歩道を歩くように訪ねた。第一回は三次組東光坊にご協力いただき、妖怪話と石山合戦の物語を掘り下げてみた。知られざる備後真宗史の一面をクローズアップし、その魅力を再発見していきたい。

(敬称略) (文責・教区報専門委員)



▲天狗の爪由来書



▲天狗の爪

「天狗の爪」と称される伝来品は、東光坊に三百年以上前から伝わるもので、由来書きの巻物も現存しているが途中で切れており、その真相は分からない、と住職は語っている。ほかに、「化け狐と化かしあい」をした物語も伝わっている。

狐の化けの皮(伝説)

昔、ある秋の夜、東光坊住職が香淀にある門徒の家の法事にでかけ、土産の重箱を手に、熊見のあたりまで帰ったときのことです。

「モシモシお坊さま、お願いがございます」と声がします。

この夜更けに、二十歳ばかりの娘が一人道ばたにたたずんでいるではありませんか。ほっそりした体を、紅の打掛につつまんでいます。

「おや? この夜更けの山道に、どこの娘さんか?」と一瞬いぶかしく思いましたが、すぐに察して

「汝は狐、こざかしくも拙僧をたぶらかさんとするか。この若狐め、お前のごときの術で、わしがだまされるところのか。」と住職が返します。ご馳走の入った重箱を狙ったキツネの試みは、みごと失敗してしまいました。

「これこれ逃げるには及ばぬ。見れば若狐、お前はいかほどの変化の術を会得しておるのか?」

「お許しくださいませ。これはとんだ不調法をいたしました。今ようやく、七変化の術を習ったところでございます」

「うーむ、たったの七変化か。まだまだ修行が足りぬの。わしのこの頭巾と袈裟は、七変化どころか誰でもだませる不思議なものじゃ。この頭巾と袈裟をつけて、

『わしは作木の東光坊、小豆飯と油揚げが大好きで、人参ゴンボウ大嫌い』と申してみい。この近在のどの家を訪ねても、汝の好きな小豆飯と油揚げが欲しいまま



じゃ。どうじゃな、わしの頭巾や袈裟とお前の化けの皮と取り替えてみないか『小豆飯と油揚げ...? これは願ってもないこと』

とうとう狐は化けの皮を脱いで頭巾や袈裟と交換してしまいました。その次の日のことです。

すっかり信じこんだ狐は、頭巾と袈裟をつけて、とある農家へ立ち寄りしました。「エヘン、わしは作木の東光坊、腹が減ったによつて立ち寄った。何かご馳走してくれまいか。わしは小豆飯と油揚げが大好き、人参ゴンボウは大嫌い。そうそう油揚げは甘く煮てくれ」

「なに、この狐め、ようもまあ、お寺の頭巾や袈裟を盗みおつて」

「このとぼけ狐め、頭巾や袈裟はそっくりじゃが、中身は狐の正体丸出しじゃ」

と、どこへ行つても棒でたたかれ、犬に追いかけられたり、さんざんな目に遭いました。

おまけに化けの皮がないので、変化の術も使えません。それからしばらくたつたある夜、狐は東光坊の庫裏の戸をたたきます。

「お願いでございます。どうか化けの皮をお返しください。あれがなければ犬に追いかけられるや



「ハテ？ わしの頭巾と袈裟は、役に立たぬか？」
「姿かたちは東光坊さまそっくりになりますが、誰もだまされませぬ。私には化けの皮がありさえすれば、犬や漁師の目はごまかせます。もう決して悪さは致しませんから、どうか化けの皮をお返しくださいませ」
「そうか、よしよし、だまされたものの気持ちがわかったか。これからは、まじめな人を決してだますでないぞ。」
住職は預かっていた化けの皮を若狐に返してあげました。

この話は『県北の民話と伝説』等にバリエーションは異なりつつも紹介されている。1820年に書かれた『下作木村異事申上ル覚』によると、「只今は化けの皮はありませぬが、それをしばらく納めていた象牙づくりの蒔絵まきえの小箱は今も東光坊に蔵す」と記されている。

余談だが、東光坊は妖怪にまつわる所蔵品が伝来している寺ということで、漫画家の水木しげる氏も調査に來られ、「これは妖怪に間違いない」と、お墨付き(?)を頂いたこともあったようだ。

東光坊の由緒

上作木(三次市作木)にあった福原城主・佐久木新右衛門の弟・馬之進は毛利氏に属し、尼子勢との戦いに傷を負い、後に僧となり、名を、「法善」と改めたという。天文14年(1543)の創建とされ、当初は了見山東光坊と号したが、後に常清山と改めた。寺の裏山にある常清滝(日本の滝百選に選ばれた広島県の名勝)に由来したのであろう。特筆すべきは、石山合戦の関与である。『芸藩通志』には

「法善の子」了教、驕勇ありて、石山の役に本願寺顕如が為に、兵糧矢石を城中に運輸し、屢(しばしば)戦功を顕す。顕如、軍中にて書き与ふる、布手拭、六字の佛号、及び下間刑部兵糧を乞うの状を蔵す。軍功感状は広島徳栄寺に蔵む」と記されている。

石山合戦で活躍

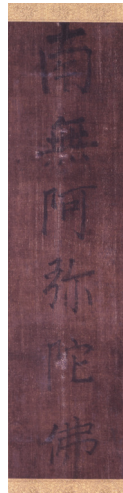
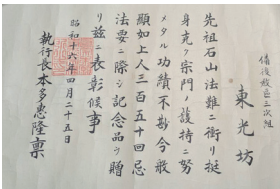
16世紀頃、本願寺は大坂石山にあり、交通の要衝かつ門徒・商・工人の集中が活発化して寺内町は大きく発展していた。しかし勢力拡大する織田信長によつて矢銭(献金)を求められ、更には大坂の寺地の明け渡しを要求された。事実上の破却の求めに対して、本願寺は信長との抗戦を決意。石山合戦の始まりである。このとき顕如宗主は全国寺院・門徒に、親鸞聖人の宗旨が絶えないよう忠節を尽くしてほしい旨の檄文や、金品などの勧進を求める手紙を各地に送ったという。その求めに呼応した東光坊2世了教(常陸房と称す)は天正4年(1576)、郷土の門徒とともに

援軍に向かう。毛利家臣の児玉就英を将とする船に乗り込み、7月(第一次木津川口の戦い)石山に兵糧を届けた後も、その陣営に加わり、数度の合戦に参加した。その軍功が顕如の目にとまり、「六字の名号」を賜る栄誉を授かったが、陣中で何の用意もなく、致し方なく湯手柄巻(血潮のついた刀の束を巻いた手拭い)に御染筆いただいたという。了教は討死して帰郷は叶わなかったが、この名号は共に参戦した都賀村(越智郡)の土居源次兵衛に託されて持ち帰られた。これが東光坊「顕如上人血染めの名号」である。



軸掛けの松▲ 感謝状▼ 血染めの名号▶

源次兵衛はこの松に名号を掛けて衣服を整え報告したという
顕如 350 回忌には、本山から上山要請があり感謝状を賜った



近年、これを修復するため薬液で洗ったところ、布地から赤い血のりが実際に滲んでいたという。

尚、了教が乗船した水軍の草津城(広島市西区)児玉家にも顕如筆「梶掛の名号」が伝わっている。

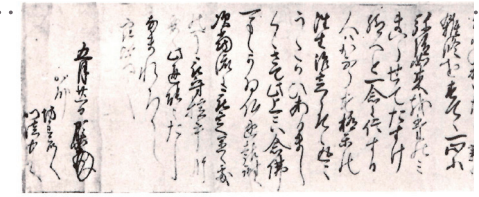
合戦当時、顕如が書かれた陣中名号の多くは「紙料に草書体」とされるが、東光坊と梶掛名号の2つは例外的に「麻布地に楷書体」である。同時期に参戦し、御染筆を頂いた一つの証左であろう。

尚、東光坊に、「下間刑部兵糧乞う状」は現存せず、慶長11年(1606)に記された書にそれらの経緯・由来を述べている。

毛利家と真宗寺院

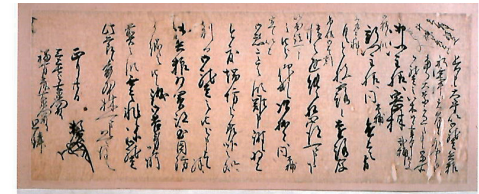
補足だが、顕如から山南光照寺に備後坊主衆、三次照林坊(当時は高宮町)に安芸坊主衆への消息(花押の型から石山合戦の頃?)が届いているが、加賀へ送った書状と違い、芸備の書状で石山合戦に直接言及する文言は記されていない。いずれにせよ芸備の援軍は当初は期待されていなかったのだろう。

そもそも本願寺は、中国地方の大名・毛利家にも協力を要請したが、因幡での尼子氏との戦いに追



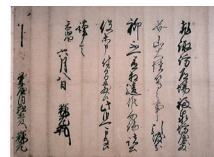
▲顕如上人の書状 (金沢 西本願寺別院所蔵)

顕如から「加賀坊主衆・門徒」にあてた消息。「信長に迫られ、其地各まで大切之場二及び候へども」



▲下間頼廉の書状 (広島県立女子大学所蔵)

本願寺坊官である下間頼廉が毛利家家臣の三上元安、福岡彦右衛門に送った書状。毛利は何度も兵糧や援軍を送り、三上元安らも石山に度々派遣されたようだ。書状は天正7年。贈答品として蜜柑が送られている。



▲福泉坊宛の毛利輝元書状 (個人所蔵)

寺のあった地の屋敷・山を安堵して諸役免除する内容。天正4年6月8日付

(引用元、参考書籍)

『石山合戦と芸備門徒 水軍天正記』(1988)、
『作木村誌』(1990)、『沼隈郡誌』(1923)、
『図説日本仏教史』(1981)、『景光山福泉坊』(2011)
『備後光照寺』(1998)、『照林坊史料集』(2020)等

われ、天正3年秋の時点では毛利はその要請に応じなかった。
同4年2月、室町將軍の足利義昭が備後鞆にきて、高山城(三原市)の小早川隆景を通じ毛利を頼ったことから一転、毛利輝元は織田との交誼をやめ、義昭の命を奉じて本願寺支援することに決めた。

こうして毛利は水軍(警護船)・兵糧、志願兵を送ることとなったが、これに芸備の真宗寺院・門徒衆も大いに協力した。戦国時期、真宗に転派開基した寺の多くが、元は武家や城主などの子弟が興したものが多くのも要因の一つであろう。東光坊の了教も天文21年の泉合戦で活躍した福原城主の甥にあたり、父子ともに武勇に秀でた。また東光坊近隣の大山の浄円寺

住職も金銭や刀の援助をし、石見国越智郡の西善寺住職も毛利に属して兵糧を送り、討死した。

これらは地理的要因だけでなく、毛利家臣や配下の影響下にあったという視点も見逃せない。たとえば毛利の本拠である郡山城下の福泉坊(安芸高田市)には、毛利配下・福岡彦右衛門の次男が入寺しているが、石山の際は毛利輝元より、「軍中の資糧を給り甲卒百人に命じて護送」し、門徒を募り兵糧百俵を調べて、旧縁によりて毛利氏の助力を請い、足軽五十人を借り受けたという。

それを裏付けるように、同時期、毛利輝元より福泉坊の寺領を安堵する書状、並びに奉行人連署奉書が残されており、更にはその後、毛利家とともに広島城下へ移り、関ヶ原後は萩(山口)に寺基を移転(後に帰郷)している。
吉田徳栄寺(大谷派)も同じく毛利配下の三上元安の弟が開祖であるが、同様に広島にも徳栄寺を興している。東光坊の記述にある「軍功感状」は、これであろう。
このように毛利と真宗寺院との意向が相乗して石山へとせまじたのであるが、顕如はこの支援に感じ入り、天正8年に大坂を退去するとき、本願寺(御真影の御座所)を安芸や備後に望んだという。
それは宇喜多直家(備前が本拠。7年に毛利から織田に離反)の反対で実現することはなかったが、右の福泉坊は石山の功で本願寺より「親鸞聖人座像」(御真影の別意匠)を特に賜った。感慨深い話である。



▲芸州吉田郡山城図 (世羅組法泉坊所蔵)

毛利家と縁深い寺は多い

親鸞木像(福泉坊蔵)▶
鎌倉～室町時代の作。
親鸞73歳の姿の木像で、元は本願寺の法物



仏法愛樂味

青年布教使による法話 第9回



広島県では、先ごろ六月の県内観測史上最高気温を日ごとに各地で更新。暑い夏がやってきました。温暖化の影響で、「四季」から「二季」へ変わりつつあるようです。過ぎゆく春や秋は、いつそう惜しまれる季節にもなりました。

さて、『一億人の季語入門』という俳句の季語を扱った本の中に、「惜しむ」という言葉について、「惜しむ」といわれるには、主に四つの条件があると紹介されていました。

まず第一に、それが私にとって「よきもの」であること。夏や冬という季節は、人

にとって過酷な季節なので、元来俳句では、「夏惜しむ」「冬惜しむ」とはいわれなかったようです。反対に春や秋は、「よき季節」として、「春惜しむ」「秋惜しむ」と使用されます。その他、「花惜しむ」「年惜しむ」「命を惜しむ」「人を惜しむ」も、「よきもの」として惜しまれることを意味します。

第二の条件は、その「よきもの」が過ぎ去ろうとしていること。春や秋を惜しむのは、そのよき季節が過ぎ去ろうとしているからです。人を惜しみ、命を惜しむのは、その人がこの世を去ろうとしているからです。

第三の条件は「よきもの」が過ぎ去ることは、止めようのないこととして受け入れていること。森羅万象、あらゆるものは必ず移ろってゆきます。人がこの世を去るのもそうです。「惜しむ」とは、時間とともに失ってしまう「よきもの」に対して抱く感情なのです。

最後の条件は、「よきもの」が時とともに移ろうことを知ったうえで、なお愛していること。人は老いる、病にもなり、そして死んでゆく。それでもその人を愛する。季節を愛でる心もそうです。「惜しむ」という言葉には、このような思いが込められています。

と。ここには「惜しむ」の本情が語られています。

「惜別」という漢語があります。これは、よき出会い、会いたい出合いをいただいて有り難うございます、という時に使用される言葉です。出会いの喜びの中にこそ、別れを

惜しむ気持ちが生まれるということです。殊に、「よき人」と別れていくことは、私にとって受け入れがたいことでもあります。だからこそ、私たちは亡き方の生き様や仏法を通して、自らの「いのち」の事実を確認させていただくのでしょうか。

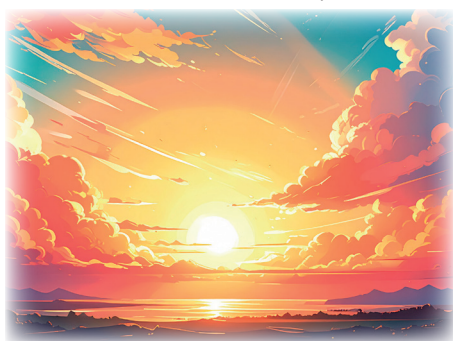
どれほど名残惜しいと思っても、この世の縁が尽き、どうすることもできないで 命を終えるとき、浄土に往生させていただくのです。

『歎異抄』（現代語版）十六頁

親鸞聖人は、「私は喜び勇んでこの娑婆世界を去っていくのではない。名残惜しんで、涙ながらにお浄土にゆけるのです」とおっしゃいます。

過ぎゆく季節を惜しむ気持ちの中に、静かに次の季節を迎えるところが芽生えているように、二度とない今日という日、阿弥陀さまのお浄土を思い、そっと手が合わさるのです。

「遇いがたくしていま遇うことを得たり」とうなづき、「南無阿弥陀仏（われにまかせよ）」のお念仏の人生を今、確かに歩ませていただきたいものです。



News & 活動情報

備後教区真宗講座



4月2日(水)、本年度の1回目となる真宗講座を開催した。本講座は平成24年10月の開講以来、安方哲爾先生(大阪教区南郡組正満寺)にお越しいただき、はや14年目、合計38回を数える。僧侶・寺族・門信徒共々に学ぶ備後教区の連続研修で、現在は『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』)を学んでいる。

本年度(計3回)は、第38回、第39回までは信文類。第40回からは証文類を学ぶ予定である。

広報伝道部会

第39回 9月4日(木)
第40回 2月13日(金)
※いずれも13時～16時10分
於 本願寺備後教堂

寺婦連盟

若婦「同じ花を想って」



4月7日(月)、沼隈南組光源寺(北山祐章住職)を会所に、教区寺婦連盟若婦人研修会を開催した。この度は、法話とオカリナコンサート「同じ花を想って」と題し、三次組西覺寺副住職の伊川大慶副住職・オカリナ奏者の伊川聡子さんご夫妻にお越しいただいた。大人から子どもまで楽しめる幅広いジャンルの曲目を演奏いただき、オカリナの澄んだ音色に心安らぐひと時を過ごした。

仏婦連盟

結成70周年記念大会

4月18日(金)、神辺文化会館大ホールにて、教区役職者並びに歴代委員長ご臨席のもと、備後教区仏婦連盟結成70周年記念大会を開催し、教区内各地より482名の会員が参加した。

大会記念講演では、天岸淨圓先生(大阪教区東住吉組西光寺住職)より「宗教のトリセツ



「現代人の宗教観」と題して、私たちの日常生活と宗教とが、どのように関わりつながっているのかをお話いただいた。

記念行事では、シンガーソングライターとして多方面で活躍される二階堂和美先生(安芸教区佐伯西組大龍寺住職)にお越し



いただき、トーク&ライブで参加者とともに心温まるひと時を過ごした。70年という歴史のなか、先人方のお導きによりみ教えに出遇うことができたご縁に感謝するとともに、これまで受け継いできたものを次の世代へ伝え、つながっていくことの大切さを改めて実感する大会となった。



仏壮連盟 楽しく仏事

4月13日(日)、仏教壮年会連盟(宇山茂之理事長)では、本願寺備後教堂を会場に総会並びに研修会を開催した。

総会では連区会員研修会引受についての概要が報告され、9月開催に向けて各単位会への周知を行った。続いて行われた研修会では、和泉裕生勤式指導員(神石組正光寺住職)を講師として、普段なじみのあるお勤めや仏事を深掘りした話を聞き、楽しく学びを深めた。

令和7年度総会ならびに研修会



新しい時代の念仏者養成のための 人権に関する連続研修

御同朋の社会をめざして【差別やいじめのない社会に】

(養成研全6回)

4月22日(火)、同朋社会部会では岩本智依先生(奈良教区奈良組常連寺)を講師にお迎えし、「み教えと差別の現実―念仏者と性―」と題して、人権に関する連続研修(養成研第3回)が開催された。

まず講題を学問的な課題だと思われがちだが、そうではない。個人情報流出、人権侵害、過去帳開示が、なぜ差別につながるのか。

宗教とは、悩み苦しみに、いかに応え、寄り添い、向き合っていくかが大切。私が生きていく上で経典、み教えにどう向き合っていくのか、「随順仏語」「順彼仏願」という語をあげて、経典をどう読むかについてを問題提起された。

親鸞聖人は、自身を煩惱具足の凡夫と捉えつつ、しかし自分が排除されないという信念を持っておられた。「唯除五逆」も師の法然聖人とは異なった読み方をされている。仏教は「五障三従、変成男子」というように経典の言葉を利用して女性差別を定着させてきた面がある。

しかし宗祖が、「五つのさわり離れねば、女身をいかでか転ずべし」(高僧和讃)にあるように、経典にこめられた仏意から差別開放へ展開していかれた例もあけて、今日的な課題や社会とともに変化していく差別を見抜く力が僧侶に足りなかったことを考えさせられた。

先生が語られた「差別という問題に、第三者はいない。自分も加害者になり被害者になる」「私たちにとって経典は何なのか、おみのりか、歴史的資料か、趣味の読書なのか?」という言葉が胸にせまり、印象的であった。

「み教えと差別の現実―念仏者と性―」



同朋社会部会

教区月報 令和7年4月

4月(April)

- 2日 第38回真宗講座
- 3日 仏壮監査
- 4日 仏婦監査・常任委員会
- 7日 寺婦若婦研(沼隈南組光源寺)
- 8日 IT専門委員会
- 11日 教室常例法座
- 13日 仏教壮年会総会・研修会
- 14日 門徒推進員世話人会
- 15日 布教団団長・副団長会議
- 18日 仏婦70周年(神辺文化会館)
- 21日 おつとめ教室・勤式練習会
- 22日 同朋社会部会
- 22日 第3回養成研
- 25日 仏婦総連盟総会(本願寺)
- 30日 少年連盟連絡協議会(安芸教区 1日迄)

5月(May)

- 1日 仏青監査
- 7日 門推監査
- 9日 保育監査
- 11日 教室常例法座
- 12日 門徒推進員世話人会
- 14日 矯正強化広島管区支部役員会
- 20日 ・総会(安芸教区 15日迄)
- 22日 助永議員宗会副議長就任祝賀会
- 平和のつどい開催委員会



助永宗会副議長就任 祝賀会



先の本願寺・第325回定期宗会において宗会副議長に就任された助永一男門徒議員をお祝いする祝賀会が那須英信宗会僧侶議員、山名淳教区会議長、立神義昭組長代表発起人のもと開催された。助永議員は、平成24年12月の総選挙に立候補され当選。備後教区門徒宗会議員として現在4期目となる任期を務められている。祝賀会には教区・教堂役職者出席され、和やかな時間を共有した。なお、このたびの副議長就任にあたり、助永議員と所属寺である大通寺（大淵英範住職）より連名で親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年記念五条袈裟（1領）を本願寺備後教堂に寄贈いただき、祝賀会の場で披露された。

寺婦連盟

令和7年度総会・研修会

6月10日(火)、本願寺備後教堂にて、教区寺婦連盟総会・研修会を開催した。午前の総会では、前年度の事業報告並びに決算、本年度の事業計画案並びに予算案について審議を行い、満場一致の承認をいただいた。

午後からの研修では「災害に対するお寺の備えと発災時にお寺のできること」と題し、三ヶ本義幸先生（安芸教区広島北組德行寺住職）よりお話をいただいた。

寺院の立地により想定される災害（沿岸部であれば津波、山間部であれば土砂災害等）は様々であり、ご自身の災害ボランティア活動のご経験も踏まえ、いつ起こるかわからない災害に対する備えについて助言をいただいた。

また、いざ災害が発生した時にお寺ができることは限られるが、日ごろから地域コミュニティと密な関わりをもつことの大切さについてお話しいただいた。

災害に対するお寺の備えと発災時にお寺のできることに



22日	実践運動教区事業検討委員会
23日	おつとめ教室・勤式練習会
26日	第4連区 門推員連絡協議会
28日	(尾道国際ホテル 27日迄)
29日	布教団監査
30日	寺婦役員会
30日	布教団役員会
30日	仏婦常任委員会
30日	ビハーラ備後役員会
6月 (June)	
4日	保育連盟全体会総会
6日	門信徒部会
9日	更生保護常任理事会
10日	寺婦総会・研修会
10日	教区報専門委員会
11日	教堂常例法座
12日	(青年布教大会併催)
12日	おつとめ教室・勤式練習会
12日	中四国 寺族青年野球大会
13日	(安芸教区 13日迄)
16日	門徒推進員のつどい
17日	組勤式推進員研修会
19日	教区・教堂監査
20日	布教団総会・研修会
21日	夏期布教大会
23日	第4連区仏壮連絡協議会
23日	同朋社会部会
24日	人権問題学習会
24日	常備会僧侶議員協議会

門徒推進員

門徒推進員のつどい



6月13日(金)、本願寺備後教堂にて、備後教区門徒推進員のつどいを開催した。午前は昨年度事業、並びに本年度の各種事業について報告した。

午後からは、本年度備後教区門徒推進員連絡協議会担当にて開催する第4連区研修会のテーマ「戦後80年を迎えてともに生きていくために」平和とは自分に来ることを考えよう」をもとに、佐藤知水先生(中組光栄寺住職)より、講義いただいた後、班に分かれての話し合いを行った。

さまよえる布教法

6月19日(木)、

本願寺備後教堂にて、備後教区布教団総会・研修会を開催した。研修では、本願寺派輔教、広島仏教学院講師としてご活躍の中村英龍先生(安芸教区佐伯奥組最広寺住職)より「さまよえる布教法」と題して講義いただき、団員一同研鑽を深めた。翌20日(金)には、夏期布教大会を同会場で開催し、備後教区布教団より福岡願団員、大塚裕玄団員、塩田信成団員、安部恵証副団長が出講した。朝・昼席の両三席目は中村英龍先生にお取次ぎいただき、多くのお同行が聴聞された。



夏期布教大会



布教団

同朋社会部会

人権問題学習会



6月23日(月)、本願寺備後教堂にて、人権問題学習会を開催した。

講義には、「いのち・未来うべ」代表、「障害者の防災・避難を考える市民の会」共同代表の岡本正彰先生にお越しいただき、「障害をもつ私から見える現代社会」について、ご自身の経験やこれまでの歩みを踏まえお話しいただいた。

24日 少年連盟監査
25日 教堂責役総代会
29日 仏壮お勤め練習会(三次組西福寺)
30日 平和のつどい実行委員会

7月 (July)

1日 第4連区布教使研修会 (山口教区(2日迄))
3日 前期勤式研修会
4日 おつとめ教室・勤式練習会
7日 実践運動総会全体会
7日 組長会
8日 ビハークラ備後総会・公開講座
9日 中四国少年連盟指導者研修会 (安芸教区(10日迄))
10日 更生保護理事會
11日 教堂常例法座
14日 ご縁づくり推進検討会議
14日 少年連盟総会
17日 仏婦会員研修会
22日 第4連区仏壮研修実行小委員会

今後の予定

28日 第4回養成研
30日 更生保護総会・研修会

8月 (August)

1日 布教団特別布教大会 (三次組寛善寺)
11日 教堂常例法座

布教団 連区で研修会

7月1日(火)～2日(水)、山口教区布教団担当にて開催された第4連区布教使研修会に、備後教区より正副団長はじめ、22名が参加した。

同朋研修では、『み教えと差別の現実』からの学び。經典は拝読の基本姿勢な確立』と題し布教団連合同朋研修講師の伯水永雄先生より、また本研修では、『御本典概論』真実五巻を中心として』と題し、本願寺派司教の佐々木義英先生よりお話しいたさき、団員一同研鑽を深めた。



勤式 前期勤式研修

『葬儀勤行集(拡充版)』活用
『葬儀の手引き』



7月3日(木)、本願寺備後教堂にて、前期勤式研修会を開催し、40名が参加した。この度の研修では、宗派総合研究所より寺本知正副所長にお越しいただき、新たに作成された『葬儀勤行集(拡充版)』『葬儀のてびき』の活用について、儀礼・儀式の歴史や真宗における葬送儀礼の意義も踏まえお話しいただいた。

実践運動

事業推進委員会
総会ならびに全体会



7月7日(月)、本願寺備後教堂にて、実践運動の教区委員会総会並びに事業推進委員会全体会を開催した。

現在、第5期(令和6年度～令和9年度)の推進期間となる実践運動について、教区における前年度の事業報告ののち、本年度の各種事業計画について協議した。戦後80年を迎える本年は、全戦争犠牲者を偲び、平和への思いを新たにす「備後教区平和のつどい」を教区全体での開催とし、また戦後80年を機縁とした教区テキストの作成等進めていくこととなる。

12日 備後教堂休館日(17日迄)

20日 門徒推進員実行委員会

21日 広報伝道部会

23日 まことの保育研修会
(沼隈南組南光坊)

9月 (September)

1日 連研のための研究会

2日 ビハークラヤらぎ講座

3日 同朋社会部会

4日 第39回真宗講座

4日 全国寺族青年野球大会(5日)

5日 平和のつどい実行委員会

8日 おつとめ教室・勤式練習会

8日 ハンセン病現地学習会
(長島愛生園)

10日 環境問題現地学習会
(広島別院他)

11日 教堂常例法座

18日 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

27日 第4連区仏壮会員研修
(ビッグローズ)

10月 (October)

1日 第4連区青年布教使研修会
(四州教区 2日)

8日 平和のつどい(神辺文化会館)

11日 教堂常例法座

26日 第4連区門推実践運動研修会
(尾道市 27日)

総会・公開講座

7月8日(火)、本願寺備後教堂にて、ビハール備後総会並びに公開講座を開催した。午前の総会では、前年度事業決算、また本年度行事予算について審議され満場一致での承認をいただいた。

午後からの公開講座は、ビハール山陰前会長の三谷卓良先生にお越しいただき、「手をつなぎ・心をつないで・ともに輝いて・生きる」を主題に、障害を抱える息子様とのエピソード等お聞かせいただくなかで、ビハール活動の原点でもある「寄り添う」ということについて学ばせていただいた。



少年連盟

連区研修



7月9日(水) 10日(木)、安芸教区少年連盟担当にて中四国ブロック指導者研修会が開催され、備



後教区より9名が参加した。初日は子ども会等のレクレーションとしても活用できるモルックやインディアカ、囲碁ボールを体験し、夕方の懇親会では他教区参加者との交流親睦を深めた。2日目は会場をエディオンピーススウィング広島(昨年開業したサッカー場)に移し、「子どもの可能性を最大限に引き出す最高な方法」と題し、元サッカー日本代表の畑喜美夫さんより、ワークシoppも交えながらお話いただいた。

仏婦連盟

3会場で会員研修会

7月17日(木)、本願寺備後教堂をメイン会場、三次組西覺寺(伊川文雄住職)並びに世羅組法泉坊(毛利令就住職)の2会所をサテライト会場として仏婦会員研修会を開催し100名を超える会員が参加した。



研修では、宗派にて組織教化関係の部長や、本願寺広島別院輪番等を歴任された榮俊英先生(山陰教区飯石南組西雲寺)にお越しいただいた。

「仏教婦人会活動の意義とは」



仏教婦人会活動の意義とは



サテライト会場となった三次市と世羅町にはオンライン中継し、同時開催された

をテーマに、仏教婦人会の成り立ちやこれまでの歩みについてお話しいただくとともに、ご縁いただいた私たちが、次の世代へお念仏のよろこびを伝えひろめ、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献していくことこそ、私たち仏婦活動の根底にある重要な部分であると学ばせていただいた。

11月 (November)

11日 教堂常例法座
28日 教堂報恩講法要

※尚、毎年秋に開催しております「仏婦・寺婦 実践運動研修会」、「教区門徒総代会研修会」の2件につきましては「平和のつどい」が全組開催になったことを受けて休止とさせていただきます。

「願記処理電子システム」について (寺院情報・僧侶情報の閲覧機能を含む)

本年度(2025)より、宗派に登録された「寺院情報・僧侶情報」の閲覧機能を搭載し、「責任役員任命申請」並びに「門徒総代届」の電子申請が可能となる「願記処理電子システム」の運用が開始されました。

この度のシステムは、宗派登録の寺院・僧侶情報が寺院で確認でき、願記申請についても、寺院・組事務所・教務所の負担軽減 及び 円滑な手続きの実現に向けて開発されたものです。

■システム利用にあたって
宗派より事前に各寺院へ送付されました「ID」及び「パスワード」にてシステムにログインいただくことで利用が可能となります。

- 注1 電子申請利用の場合、願記は宗務所へ直接申請となりますが、願記申請にかかる冥加金(及び教区手数料)については現行通り教区教務所での納付となります。
- 注2 対象願記を他の願記(住職任命申請等)と同時に申請する場合は書面での申請をお願いいたします。
- 注3 システム導入にあわせて、「責任役員任命申請」「門徒総代届」の書面での申請様式等も変更されております。

願記取扱要綱

役員関係

個人関係

願記関係

寺院関係

その他

ご利用にあたって

関連リンク

浄土真宗本願寺派

申請事項・内容	申請用書面(頁数)	書類ダウンロード	事務票(1頁)
01.住職任命申請 ＜参考＞京報 2018年11・12月号	・住職任命申請書(4頁)	PDF WORD	＜A＞
02.副住職任命申請 ＜参考＞京報 2018年11・12月号	・副住職任命申請書(2頁)	PDF WORD	＜A＞
03.住職代務任命申請 ＜参考＞京報 2018年11・12月号	・住職代務任命申請書(4頁)	PDF WORD	＜A＞

利用内容

- ①寺院の寺院情報・僧侶情報の閲覧
- ②電子申請による願記処理
申請可能な願記は「責任役員任命申請」「門徒総代届」で、寺院から宗務所への直接申請となります。なお、現行通り書面による申請も可能となっております。



願記処理電子システム

<https://ganki.hongwanji.jp/>

上記URLまたはQRコードによりログインいただき、登録の上、ご利用ください。

※ 利用マニュアル並びに各種願記申請様式については、宗派寺院活動支援部公開サイト「お寺の情報箱」よりダウンロードできます。その他利用に関するご不明点ございましたら教区教務所までお問い合わせください。

浄土真宗本願寺派 寺院活動支援部 公開サイト お寺の情報箱 願記取扱要綱

<https://johobako.hongwanji.or.jp/outline/member.html>

管理者ID、パスワードは、2025年3月に各寺院へ郵送しています。もし紛失等がありましたら、下記問い合わせ先へご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

問い合わせ先

浄土真宗本願寺派宗務所内 統合企画室(DX推進チーム)

☎: 075-371-5181 mail:kikaku@hongwanji.or.jp

戦後80年 全戦争犠牲者をしのんで
平和を築く道

備後教区
第30回

平和のつどい

と き 令和7年 10月8日(水) 13:00~16:20

ところ 神辺文化会館 大ホール (福山市神辺町大字川北1155-1)

内 容 法要 全戦争犠牲者追悼法要勤修

法 話 那須英信 先生 (沼隈南組善正寺住職)

公 演 戦後80年記念 音楽法話「平和のうた」

講 師 三浦明利 先生 (奈良教区吉野北組光明寺住職)

参加申込 9月3日までに所属のご寺院へお申し込みください。

施設平面駐車場に限りがありますので、出来る限りお車乗り合わせでのご来場にご協力お願いいたします。

寄贈

ありがとうございます

この度、本願寺備後教堂へ下記の通り寄贈いただきました。心より御礼申しあげます。寄贈いただきました法衣は、教堂恒例法要、また教区での法要行事等で大切に使用させていただきます。

- ◆親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年記念 五条袈裟
御調東組様より 二領
大通寺様
助永一男様より 一領
- ◆沼隈南組 善行寺様より
僧班衣体
(色衣・五条袈裟・切袴) 一式

令和7年度
本願寺備後教堂

報恩講法要

と き 11月28日(金)
初座法要 10:00~ 満座法要 13:30~

ところ 本願寺備後教堂 (福山市東町2-4-5)

法 話 山本攝叡 先生

(本願寺派司教、本願寺派布教使、行信教校講師、大阪教区中島東組定専坊前住職)

得度許可

おめでとうございます

(敬称略)

世羅組 照光寺

脇本 由那 (釋由心)

(令和7年2月15日付)

沼隈南組 南禅坊

高階 聖壽 (釋聖壽)

神石組 正善寺

熊原 顕土 (釋顕土)

神石組 正光寺

和泉 古都音 (釋古都)

比婆組 西教寺

大川 俊文 (釋俊文)

三次組 法正寺

丸山 如子 (釋遊文)

御調東組 善行寺

小山 一太 (釋一燃)

(令和7年3月15日付)

敬弔

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

沼隈西組 善立寺

龍谷 善一 (4月6日寂)

三次組 光西寺

長田 ツル工 (5月1日寂)

深津組 正福寺

廣田 義人 (6月4日寂)

芦田組 妙泉寺

箱田 和雄 (6月21日寂)

常例法座

(毎月11日)

出講者(敬称略)

8月「いつでもご一緒くださる仏さま」
三次市甲奴町 法専寺 加藤 哲願

9月「慈悲充滿」
三次市下川立町 圓勝寺 部 晃尊

10月「南無阿弥陀仏のご利益」
井原市芳井町 光栄寺 佐藤 知水

11月「ただ ほれぼれと」
福山市沼隈町 南泉坊 岡部 正顕

第27代

備龍会が 始動しました

本年度備龍会総会 令和七年八月二十六日に役員改選が行われ、第二十七代備龍会会長を拝命いたしました。世羅組正満寺住職 島津慧と申します。歴史ある備龍会会長は、私のような者に務まるようなポストでは無いと思いますが、現役会員の皆様が「島津もいい歳なのだからいつまでもフラフラせず、ここで会長を経験し少しくらい成長せよ」との思いで、私に「推しつけて」くださったのかなと有難く感じています。

私が当会に所属させていただき二十二年近く過ぎました。振り返ってみると、ずっと「備龍会に甘えさせてもらってきたなあ」とつくづく思います。各種研修会、周年記念事業、野球部とフットサル活動等々、節目毎に大らかな居心地の良さに甘えさせてもらいました。それが当会の大きな魅力の一つだろうと勝手ながら思っています。コロナ禍を経て、今後世間の流れがどのように変わっていくのかはつかめませんが、「備龍会の居心地の良さ」をこれからも大切にしていきたいと思っています。現役会員の「鋭い視点」と「手厚いサポート」を賜りながら二年間精進してまいります。

最後になりましたが、教務所長様をはじめ教区内の皆様におかれましては、今後とも備龍会活動へのご理解、ご協力をお願い申し上げます。 称名

会長
島津慧



副会長
(広報部)
季平祐也



副会長
(研修部)
龍谷唯



副会長
(交流推進部)
立神寿昭



事務局
岡部哲應



会計
久本晃真

編集後記

毎回聞かされていたのが、戦時下の苦労話であった。命の真上を飛び交う銃弾をかくぐった元陸軍兵の武勇伝や、銃後の本土で家族を守り抜いた肝っ玉母さんの根性話。交わす杯が増すほどに声が大きくなったのは、酒の力を借りなければ話せないほどにづらい経験だったからかもしれない。だがそれは、当然、経験した者だけが語り浸れるものであって、戦後生まれの人間は、うつむくしかなかった。そう、少々鬱陶しがりながらだ。▼戦後80年、その類いの話がほぼ聞けなくなった。そこで初めて気づくのは、聞いていたのは決して自慢話などではなく、紛れもなく記憶の継承であったということ。なんともつたないことをしていたことかと、後悔してやまない。だが、まだ間に合う。聞かせていただいた記憶を紐解くため、被団協の箕牧さんたち世代が元氣なうちに、非戦平和へのメッセージを、しっかりと受け取りたい。

(T・I)



更生保護活動の一環で、7月初旬には福山城もイエローライトアップされた。